

レジメン名	診療科
ガザイバ	血液内科

適応疾患
CD20陽性の 濾胞性リンパ腫

1クール	21日間
総クール	8クール (維持療法の場合は2か月毎最長2年)
休薬期間	6~20日間

薬剤名	投与量(mg/m ²)	投与日 (d1~d5、d1、d8等で記入)
オビヌツズマブ	1000mg/body	1クール目：d1, 8, 15 2クール目以降：d1

内服併用薬	投与量(mg/m ²)	用法	投与日(d1~d5, d1, d8等)
コカール	400mg	ガザイバ投与30分前	1クール目：d1, 8, 15 2クール目以降：d1
ポララミン	2mg	ガザイバ投与30分前	

処方 (輸液・プレメジ・ポストメジを含む)

番号	薬剤名・用量(mg/m ²)	投与方法	投与時間	投与日 (d1~5等)
①	デキサート4mg+Ns 100mL	DIV	30分	d1 (d8, d15は必要時のみ)
②	ガザイバ1000mg + Ns 250mL	DIV	※下記	1クール目：d1, 8, 15 2クール目以降：d1
③	Ns 50mL (フラッシュ用)	DIV	-	
④				
⑤				

備考 (減量・中止の基準を記載してください)

- 【初回投与時】
- 最初の30分は12.5ml/hrの速度で点滴静注を開始し、患者の状態を十分に観察しながら、その後注入速度を30分毎に12.5ml/hrずつ上げて、最大100ml/hrまで速度を上げる事が出来る。
 - grade1~2のinfusion reactionが認められた場合、症状により注入速度を緩めるか、投与の中断も考慮する。
- Grade3以上の重篤な症状が認められた場合は、直ちに投与を中止し適切な処理を行うこと。投与を再開する場合は、症状が完全に消失した後、中止時の半分以下の注入速度で開始すること。
- 【2回目以降】
- 初回投与時に発現した副作用が軽微であった場合、25ml/hrから開始し、その後30分ごとに25ml/hrずつ上げて最大100ml/hrまで上げる事が出来る
- 【再投与時】
- 再投与時の初回投与においても重篤な副作用が発現するおそれがあることから、12.5ml/hrの速度で投与開始すること。
 - 2回目以降の注入開始速度は初回投与に発現した副作用が軽微であった場合、25ml/hrから開始することが出来る。

※G-CHOPレジメン、または維持療法として当レジメンを使用